

小さな拠点が創るローカルSDGs (愛媛県久万高原町)

取組概要

小さな拠点が創るローカルSDGs

- ・ 少子高齢化が続く久万高原町で、地域それぞれの課題を解決するために小学校区を単位とした地域自主組織(地域運営協議会)を立ち上げている。
- ・ 数年の準備期間を経て令和元年度から本格設置された面河地区地域運営協議会に始まり、その取り組みが相乗効果として地域に刺激を与え、各地域で設置の動きが起こり、地域課題解決へ向けた積極的な取り組みが展開されている。

取組の効果

- ・ 地域のコミュニティを維持するためだけでなく、資源の好循環から生み出す・稼ぐ地域づくりを行っている。面河地区では観光振興が生業へと変わりつつあり、JAの撤退に対して地域自らがスーパーを運営しようとする動きも出てきた。さらに、使用されなくなった旧中学校の寄宿舎をゲストハウスに変えようとする動きなど地域の発想が好循環を創り出している。

創意・工夫した点

- ・ リーダーとなる者、女性の活躍は特に重要視し、大学連携などによって若者たちが地域の暮らし・歴史・文化を学び、地域が元気になるアイデアを一緒に考える。そうした取り組みを大切にしている。

他団体へのアドバイス

- ・ 学生や若者を巻き込むことが地域の元気につながることから、大学との連携などを大切にプロジェクトを進めていくことが成功の道だと考えています。

人口 7,686人 (R4.1.1現在)

担当 総務課 大政公昭



サロンにて医師・医学生の健康寸劇



放棄茶畑の再生と面河烏龍茶の開発